

特230

579

昭和十一年三月

農家指導研究

第一集

兵庫縣明石郡農會



始



特30
579

昭和十年度明石郡技術員研究集

一、緒

二、蒨草の八月栽培の研究

三、西瓜促成栽培に就て

四、部落農會の指導に就て

五、農家の副業として養蜂の研究

六、水稻肥料施用試験研究

七、煙草後作の水稻白糯に就て

八、肥料共同配合所經營狀況

九、大久保村地方稻作法に就て研究概況

十、旱害對策作物研究

次

垂水町農會技手……佐藤千代吉……二

伊川谷村農會技手……石崎恂……次

玉津村農會技手……稻澤義雄……一

櫛谷村農會技手……濱田靜彌……一七

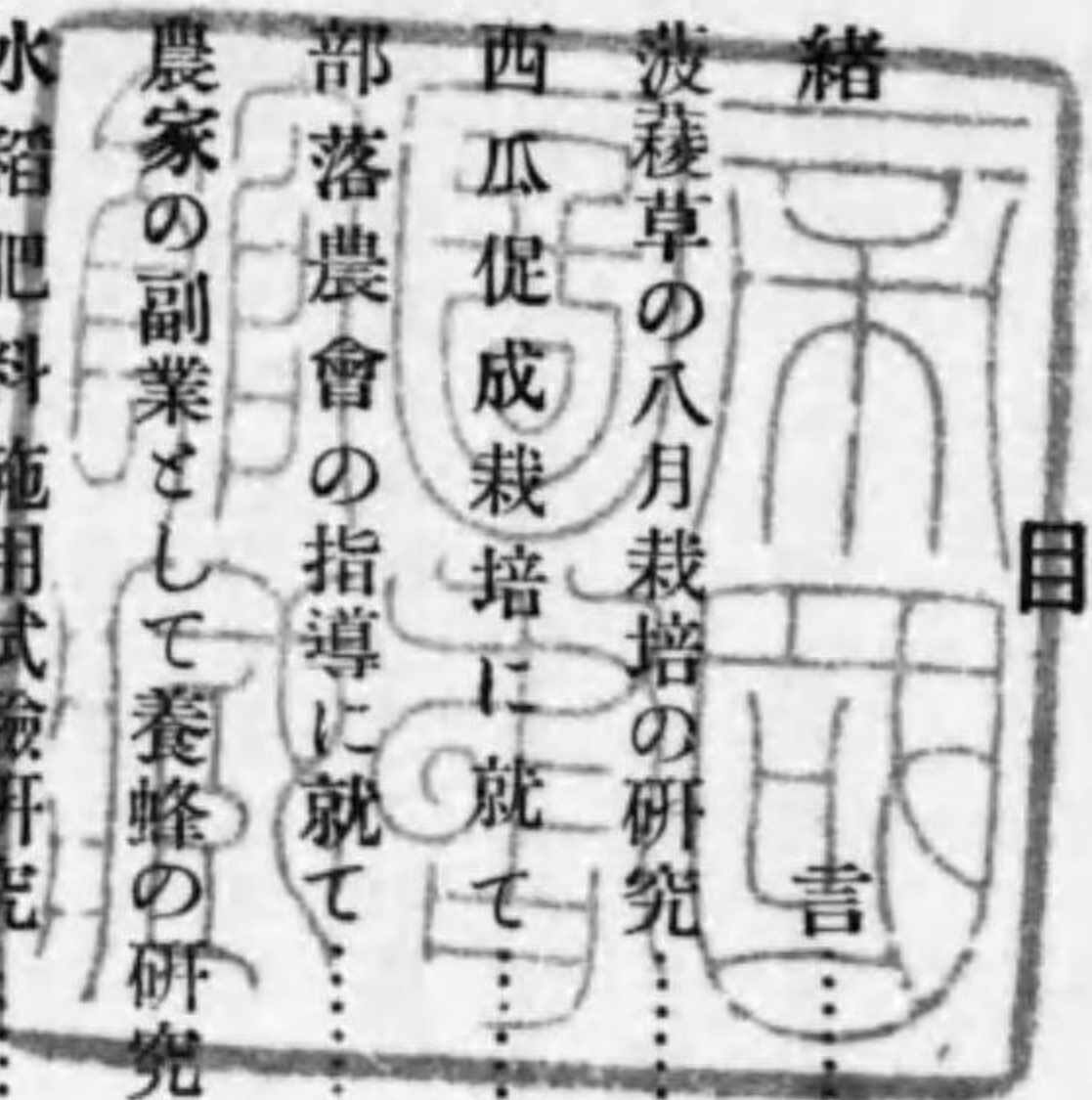
押部谷村農會技手……森脇茂……四〇

神出村農會技手……柴原彌之助……四六

平野村農會技手……戸田純一……五一

大久保村農會技手……高橋梅義……七六

岩岡村農會技手……井澤武夫……八一





一、緒言

農業技術者の眞生命は實際技術を体得して經濟界の動向を察知し、農家を献身的に指導するものなり。

本會は茲に考ふる處あり豫算を得て郡内町村農業技術員に指導の根據を得せしむるため其町村に於ける最も緊要適切なる獎勵事項につき、繁雜なる業務の傍ら寸暇をさきて研究調査せしめ、之に研究費を支出することとせり。郡内技術員は幸ひにして擧つて賛成し日頃の經驗と學理を基調として計畫、調査、研究をなしたり。今茲に其の成績報告を蒐録して第一集となす、内容もとより學者の研究と自ら異り現在活動しつゝある農業經濟界と密接の關係あるものゝみなり。

各自の研究が相互の參考となり以て本郡農業發達上に裨益する資とならんことを切望する次第なり。

昭和十一年三月

兵庫縣明石郡農會

一、菠薐草ノ八月栽培ノ研究

垂水町農會技手 佐藤千代吉

菠薐草ハ蔬菜類中營養價値に富み且つヴィタミンの含有量最も多き柔軟蔬菜として老幼人によく殊に病弱者の副食蔬菜として重要な地位を占め従つて之が需要も週年絶ゆることがない。市場に於ける供給は秋期より翌春に亘り漸次激増し遂に市價を低落せしむるも夏期に入るに従ひ市價は恢復せられ供給は漸減となる。此の炎暑期の八月は菠薐草の最高値を示す時期である現今此の時期に於て相當纏りたる生産地は本縣内にありては僅かに有馬郡山口村船坂なる一寒村の天恵による獨占栽培あるのみである。園藝家たる者須く此の垂涎三尺の現状を打破すべき責務がある。此の意味に於て七―八月の炎暑期に於ける生産に對する實驗業績を茲に發表せんとするものであるが元より公務多端の内に於て只一作の試みなれば將來益々此の方面に研究の歩を進め以て實際栽培上に多少の貢獻を擧げんと欲するものである。

然らば生産者の立場より見たる市場の經濟的高潮期たる八月の炎暑期に於ける栽培は何故

今日斯くの如く不振の現状にあるか、我々は少くとも左の原因に支配せらるゝものと首肯するものである。

- (一)、炎暑期の高温と強力なる陽光は發芽及生育に支障を興ふること
- (二)、病害の發生蔓延劇甚なること

以上掲げたる二点に對する對應策を實地栽培上に應用したのである。左に耕種概要に就き概略を記す

一、耕作地の概況

高燥なる礫質壤土の灌漑の便なき畑地にして前作に苜を栽培し後作として苜收穫後直に一畝歩當堆肥二百貫石灰二貫五百匁、木灰五貫を撒布し十分耕肥して土壤の肥培に努めたり之れ即ち高温期にありては栽培日數著しく短縮せらるゝにより肥料分をして土壤に十分混和吸収せしむるにあり

二、畦 立

畦巾二尺五寸の平畦を作り之に二條連播とす

三、種子の豫措

種子は一晝夜深き井戸へ浸漬したるのち更に井戸の水面上に懸垂して十分冷却せしめたる後播下す

四、肥料

元肥としては整地の際施したるのみならず更に發芽後鮮^ル粕三貫を豫め腐熟せしめ之を水に溶かして二回に分施す

五、被覆の設備

圃上三尺高に葭簀張用の設備をし毎朝七時に葭簀を以て被覆し夕刻之を撤去して寛かなる陽光と外氣にあて専ら暑熱と強力なる陽光の緩和調節に努む

六、病害の防除

高温期に於ける栽培上の困難は即ち發芽の非常に劣悪なること、尙一段發芽したるものも本葉開綻前後に至り「地ギハ」より殆ど病枯するを常とせらる此の慘害を防止せんが爲め松脂石鹼加用小石灰ボルド液六斗式を發芽當時より六回撒布す

七、收穫

播種後二十日間にして密生部より間引的に採取し五本宛根部を揃へて把を束し其後十日間にして全收穫を終る此の全栽培日數ハ三十日間と云ふ頗る短期間の栽培である
左に耕種一覽表を掲ぐ

面積	播種	發芽初	發芽揃	收穫初	收穫終	價格		收量
						最低	最高	
二畝歩	七月二日	七、二四	七、二七	八、一	八、一〇	一錢五厘 一把	二錢二厘	六、〇〇〇 一〇、一六〇 ^円

三、西瓜促成栽培ニ就テ

伊川谷村農會技手

石崎 恂 次

試驗方法

- 一、直播保温
- 反別二畝歩

下種期四月一日

保温器 硝子張保温箱を用ひ箱は四分板を以て無底の一尺平方高さ四寸の箱を作り上面に一尺の硝子を置く

下種法 普通栽培と同様に行ふものであつて盛土の頂上を平坦にして東南に稍傾斜を作り上部は直莖凡そ一尺位とし種子は五粒宛下種して軽く押へる種子は一晝夜浸水せしめたるものを用ふ其の上に河砂を五分位の厚さに被ひ灌水し然る後硝子張保温箱を被覆する箱は何れも南方に二寸位傾斜せしめて据付け苗の成長に伴ひ漸次箱を上部に持上げ五月中旬外氣温暖となれば取除きたり

管理灌水三、四日置に行ふ

通風の硝子板の北側を一二寸開けて換氣を行ふ

保温箱生産費

一箱當代二錢二厘一尺角硝子十一錢計一三、二錢

北海松の四分板一坪五十錢巾四寸一間の板十五枚一坪となる故一坪より二二箱出来る

其の他一般管理は普通栽培に準ず

二、育苗移苗

反別二畝歩

下種期四月一日

苗床構造温床の大きさは巾四尺長さ二間(一坪三合)の木框を用ひ框の高さ八寸後框の高さ一尺二寸の組合せとし四尺隔きに一寸二分角の棧木を入れる板の厚さは一寸とし巾三尺長さ四尺の障子四枚を覆ひ木框の設置は前框の地上二寸後框は地上八寸床孔は前框は地下八寸後框は地下六寸中央部は四寸とす

一框(一坪三合)當踏込量

厩肥一〇〇貫藁七貫水一石踏込の厚さ六寸

三日すれば攝氏三五度以上に發熱するを以て下種鉢を並列す鉢蒔の場合は釀熱物の蒸發に依る水温を少くするため一寸位用土を入れるか或は板を敷き其上に鉢を並列す

育苗鉢

茶ボール紙鉢を用ふ茶ボール紙鉢は一鉢の材料の長さ三三寸長さ一、一尺とし之を鉢に造るには之を材料にて圓筒を作り打藁を以て束ねる底の必要なし之にて直徑三、五寸高さ二、三寸大の鉢が出来る

用 土

用土六、砂二腐熟堆肥二の割合に混合せるもの十分の一立坪（三尺平方高さ二、四尺石油箱約十四杯）に油粕二貫木灰五貫を混合し使用二ヶ月前に調製す十分の一立坪の用土にて三寸鉢約七〇〇に用ひらる

下 種 法

種子は一晝夜微温湯に浸し鉢に前記用土を盛り一鉢三粒宛下種し二分位覆土す下種後温床に並列し灌水す反當育苗床は三框を要す一框一九〇鉢を並列し得る故二―三框育苗するを安全とす

管理間引一鉢二本のものは本葉二枚の頃に一本に間引く

灌水過温に過ぎざる様注意し晴天温暖の日正午前後に行ひ五、六日置に灌水す

追肥成育不良の時は油粕三升を水一斗中に投じ腐敗せしめ上澄液三―五倍に稀釋せるものを時々灌水代に施用す

定植準備四月下旬頃より最初數日間は温暖中のみ全部障子を除去し夜間は菰を一重に減じ漸次終日障子を除去し夜間も菰を排して定植五、六日前夜間も全く障子を除去す

定植期五月十日本葉四、五枚の頃

定植前苗に充分灌水し豫め準備せる鞍築に植付け之際一株當り五、六合の細砂を株土の周圍に入れる時は發根を早め活着を容易ならしる定植後充分灌水し竹製油紙圍を以て一株當覆ふ

竹製油紙圍

巾五分長三尺の薄竹を十文字に組合せ竹の先端より五寸の所に長さ四尺乃至四尺五寸巾五分の薄竹を輪にし縛り輪竹以上に紙を張り荏油を塗る

肥料反當施肥量は普通栽培に準ず

施 肥 法

原肥藁灰又は木灰は三月に畦間の土塊精耕の際に全面に撒布す

補肥一回五月十六日定植後數日内に株の周圍四、五寸離れたる所に施用

補肥二回五月下旬補肥一回後十日位にして株間一尺位の所に施用

補肥三回六月上旬補肥二回後十日位にして株より二尺離れ南北二ヶ所に廣く淺く施す

補肥四回六月中旬補肥三回後十日間にして株と株との間に撒施肥す

收穫七月十一日より收穫をなしたり

其の他一般管理は普通栽培に準ず

成 績

最初よりの生育狀況は育苗移植よりも直播保温の方が良好なりきしたがつて收穫も直

播保温は七月六日より收穫をなしたるに比し育苗移植は七月十一日より始めたり

收量直播保温は二畝歩に付き二百三十四貫育苗移植二百七貫なり

以上は本年一ヶ年の成績なるを以て直播保温が育苗移植に比し必ずしも成績良好なり

とは斷言する譯には行かざるも本年本村に於て行ひし成績は直播保温の方が育苗移植

に比し良好なりき

四、部落農會ノ指導ニ就テ

玉津村農會技手

稻 澤 義 雄

明石郡は氣候土地交通の特異性は本村に於ても亦年毎に旺盛を極め農家經濟は全く之に依存する状態なり然るに近時一般農産物價格の下落殊に近年の凶作は本村農家に甚大なる打撃を與へ農家經濟收支の不均衡は年々累加し負債總額五十五萬圓を算し之が重壓と所得の減少は益々村民生活を脅威し引ひて思想の惡化を招來せんとする狀況となりたるを以て昭和九年度兵庫縣農會の農村更生の指定を受け縣の方針に準據して農村振興の根本對策たる更生計畫の樹立決定を見るに至れり、而して農村最後の光榮を獲得するものは全村民の肉体的健全と經濟更生に對する強き信念を把握せしむるに在るを以て先づ更生精神の涵養に努め又農業團體の根本的改革をなす爲計畫實行單位たる部落農會網の完成を期し農業の改善生活の刷新特に健康農村の建設等各般に亘り村農會産業組合小學校青年學校其他各種團

体連絡提携して更生農村建設の爲鋭意計畫實行に邁進している、而して所期の目的達成の方法として最も緊要を期する爲諸計畫を樹立せるに部落農會にのみ付き大略的に現況を發表します

昭和八年六月十四日午後四時三十分頃突如本縣揖保郡越部村に襲ひたる大旋風は大雹をはらみ來りて農作物はあたかも麥の收穫期なりし爲沃野の實を誇りたる農家の嬉びははかなく一瞬にして地上に打ひしがれ蔬菜の何れも原形をしのぶことすら出來ぬ様になり果樹類の葉を止むるものなく梢枝は切れ飛び幹の西面は脱皮し白色の木質部を露出せざるもの少なからざる慘状なりき特に此の時期として被害の影響の大なりしは苗代にして插秧期をひかへ苗は全然叩きつぶされたる上に雹魂の浮遊する冷水の爲め冷却され全く插秧に適さざるものを多數に生し農家は果然自失なすあるを知らざる狀況なりき其他山林も大被害ありたり、此際如何に處置すべきや又近年の農作物の凶作なる時又養蠶旺盛時代の現在のみにとりはれたる養蠶經濟計畫は繭絲の下落に遭遇せる時又農産物の生産過剰に伴ひて安價なる時等農家は常に不安なる時代に落ちたり、かくの如き事態を靜感せるに我々は如何

なる場合にも苦痛なく打勝つ様部落農會を單位として經營改善訓練の必要を痛感せり故に我村は部落農會自主的活動指導に邁進せんとす現在の指導方針次の如し

記

- 一、部落農會規約は農村更生實行上眞に自主的活動を期し得る様改正を斷行せり
- 二、部落の大家族主義に基く和合協力に依る協同生活に依り眞の更生を期し自主的に活動せしむるため村區域の産業並教化團體の系統的部落團體又は各種の機關は一切の情實弊習を排して之れを凡て部落農會に合流せしめ部落の一人一役主義に依る適材適所配置の部屬制度の徹底を圖り村區域各團體事業の反映實施に努めり
- 三、部落の和合協力と事業實行の徹底に供ふるため月例會の運営に付遺憾なからしむる様に務めり
- 四、部落の事業を確實に實行せしむる一方法として實施前に會員の業態に基き戸別割當をなし實行意誠を明かならしむると共に實行に際しては係員をして遺憾なき指導を加へ實行直後に其の成績を調査取纏めをなせり

- 五、必要なる諸帳簿を整備し嚴重に各係をして記録せしめり
- 六、部落の實行事業は多岐多様に亘るも之れが實施の遺憾なきを期せしむる爲に年中行事表を整備せしめり
- 七、部落の和合協力と振展を一層鞏固ならしむるため部落協議費位は捻出し得る協同事業の經營に努めり
- 八、部屬制度に基き配置したる役員係員の活動を促すため村區域團體協力の下に相互視察表彰係員の養成等を講せり
- 九、事業中殊に難事業とせられある全戸に對する農家經濟簿記帳普及事業は特別係員の活動を緊要とすべきに付村農會に於ける該係員の打合協議會は特に之れを開催せり
- 一〇、部落をして部落大家族主義に基く圓滿なる自主的活動の裡に更生發展の實を收めしむるには必ず村は毎日村區域産業教化各種團體長會を開催し相互の實行事業の連絡と實行徹底を期すべき協議打合會を開催せり
- 一一、前項各種團體の打合協議の之れが部落に對する徹底を圖り併せて部落の自主的活動

を指導督勵するため毎月部落農會會長會を開催せり

一二、更生事業の綜合的實行成績を發揚し併せて部落の自主的活動を促進するため部落農會經營競進會を開催せり

其の成績は

事項	實施前の情況	實施後の情況
一、村民の和合協力に關する事項	見るべき事項無し	部落計畫の實行に關し係員の活動顯著にして部落農會員の實行又著し農家相互の協力協調顯著なり
二、村民の振興熱意に關する事項	村農會計畫事業の實行に對し忠實ならず	村農會計畫事業の實行に關し熱意を帯び相互に實行の成績顯著村民の勤勞的氣分著しく顯揚さる

經營成績は省略す

結論

一、今日の農村の慘狀は農村が社會の文北から落伍したるためにおこつた全身病であつて

貧乏はただその一症状に過ぎぬ

今猶改善し得ない数々の陋習に見よ無計畫なる生活に見よ低級なる生産状態に見よ一般道徳に見よ宗教に見よ娛樂に見よ農村文化として何があるか

二、更生計畫が正鵠であつて農家が今日迄の農村生活の誤れる方向を大轉換するだけの自覺と勇斷とがあるならば健康回復には斷じて悲觀の要を認めない
ただ經濟方面にの着眼して計畫の重点をこゝに置くことは農村の將來を誤る

三、我等は先づ舉村一家主義に徹底して相愛輯睦善美なる村格を建設することに最高目標を置く

經濟生活の打開は自然此内に含有するものなりとの確信に立つ

四、物心二元の生活を排し日常の經濟生活へ直ちに道徳生活がある則信仰の生活であらしめたい

我等の覺悟

一、もう一度自分の職業をながめて見やう

此れ位安全な自由な楽しい仕事はあろうか

二、眞劍にやつて見よう必ず行手に輝く境地がある自分の力を信じて立上らふ

三、徒に他人の仕事に憧れたり外國の思想にうろ／＼と迷ふことを止めて百姓に歸へらう
日本に玉津村に歸らう而して燦然たる農村の文化を建設しやう
以上

五、農家副業トシテノ養蜂

榎谷村農會技手 濱 田 靜 彌

我國養蜂界の權威徳田博士の調査に依れば昭和六年度に於ける我國の現状は養蜂飼育戸數約十五万戸、飼育箱數三十八萬九千箱に過ぎず、而も其の約六割強は朝鮮で飼育されて居る

米國の五百十萬箱、獨逸の百五十萬箱、露國の五百萬箱に比すれば正に格段の相違と云わねばならぬ

然し密源あつての養蜂であつて密源を度外視しては全然養蜂は成立せない譯である

そんなら一体我國には幾群の收容力があるかと云ふ事になると、前記徳田博士の説に依れば百五十萬箱と朝鮮の三十萬箱計百八十萬箱と云ふ事になる

第一節 副業としての價值

養蜂とは蜜蜂を飼育して野外の花から蜜を搬ばせ蜂によりて蜜の加工乾燥後の採蜜、或ひは蜜蠟の採收等に外ならないのであつて之等の蜜源に豊富なる農村に在りては多少の差異こそあれ、農村として全々養蜂の不可能な町村は恐らくあるまい

養蜂家としての先輩三ヶ月町の松本氏の調査及縣種畜場の發表によると、本縣での飼育能力は現在の二十數倍を收容し得る蜜源があり、之等の時價幾拾萬圓に達する花蜜は開花後野生の昆虫の飼料に一部消費せらるゝ以外は、降雨の爲或ひは自然に流失して居る譯である私は經驗日淺きに不拘昨年度に於て一群當約一斗二升の採蜜と、三群宛蜂群を得た

松本君は一群平均一斗七升の採蜜と尙三群の分蜂群を得て居るが、過去三年間の體驗の結果必ずしも難事でない様に思われる

更に、静岡縣富士梨同業組合が二百町歩の梨園に蜂群を飼育せしことにより梨の受精を助

けて約六十%の増收率を示し、鳥取縣に於て瓜類に於て八十九%の増收等々、養蜂間接の利益も亦決して見逃せないと思ふ

第二節 蜜源

蜜源も又養蜂飼育の目的如何に依つて自ら異なると思ふ、即ち採蜜本位の場合は一年の或る季節に於て一回は大流蜜期（開花の一時的に盛んなること、假令は紫雲英、若しくは菜種等の栽培盛んなる地方）を必要とし、蜜蠟、種蜂、巢、等を目的とする場合は却つて大流蜜期は無く共春夏秋冬開花の持續するを必要條件と思われる

蜜源植物としては、梅、櫻、菜種、桃、柿、栗、紫雲英、クロバー、柑橘、瓜類、蕎麥、萩櫨木、花卉類、茶、枇杷、莓、ニセアカシヤ、稻（花粉）等が主要なものであるが、萩は私の地方では餘り流蜜は無い様である、鳥取縣伊藤技師の説によればクロバーも、青森、北海道地方では最も有望視されて居る蜜源であるが、兵庫鳥取地方の如く、石灰質に乏しい地方では殆んど流蜜は無い相である

私も蜜源擴張の意味から、養蜂組合の事業として村内の耕地の畦畔にホワイトクロバーの

播種計畫を樹てたが氏の御注意に依り中止した

以上の蜜源の内、最も良質の蜜を得らるゝは紫雲英と柑橘類、クロバー苺等であつて蕎、柿の蜜は蜜の着色が濃厚で香氣薄く食用には充分であるが、商品として價値は甚しく低下する様である

第三節 蜜源と飼育數

私は未だ調査した經驗は無いが、徳田博士の調査に依れば紫雲英五段歩に對して一群、果樹類は一町歩に對し一群、山林雜木は右の標準による開花の度合を基礎として飼育箱數を決定するを最も安全と云われて居る勿論、之は採蜜を目的として一箱十五六貫の採蜜を目標とし且峰群を中心として直經二里の圓周内を採蜜圏内としての計算である

私は右の外に飼育者の少しの注意と經費により蜜源作物の栽培、道路、耕地等の畦畔に秋季紫雲英種子の播種により尙相當の蜜源擴張を期し得らるゝと信ずる

第四節 蜂群の集蜜力

收蜜量は飼育地帯の蜜源の多少及天候、收蜜距離、蜂量等に依つて異なるが普通の場合で

流蜜期には毎日四百匁―一貫百匁の收蜜が標準と思ふ一昨年度二箱、昨年度十箱の飼育調査の結果勤務の關係上私は一週間目毎に採蜜したが、最盛期には一週間目には箱内に貯蜜の餘地なく爲に蜂群は蜂内の空所に至る所造巢に着手して居た、昨年私の成績は平均採蜜期間中は四百八十匁であつたが今年は六百匁を目標にして居る

第五節 蜂の種類

大別して歐洲種と東洋種に分れるが東洋種は問題でなく目下飼育されて居るのは歐洲種である、イタリアン、ユーカシアン、カーニオラン、サイブリアン等の種類があつて其々一長一短があるが、イタリアン種が最も適當の様に思ふので伊太利種を飼育して居る、隨つて他の種に對しては全くの無經驗である

第六節 種蜂の撰擇

若し初めての人が種蜂を購入せんとする場合は私は左の事項を極力注意したい

一、最初から多群を購入せずして先づ二群を購入すること

一群では比較研究が不可能だし又種々の不便が生じて來る、多群は無經驗の人では

無理である

二、一群必ず八枚以上の框附きで其の内六枚以上は框全面に蜂群が蜜着し其の内中心の三枚以上は蓋付の蜂兒を多数有すること

三、王蜂肥大にして光澤を有するもの

其の他色々条件があるが以上の三つが最も大切である

以上の条件が揃つて居れば他は問題でないと思ふ

近時養蜂熱の普及せんとするに付込み相当高價に販賣せられ純粹種云々の言を聞くが今日の蜜蜂に於て純正種を求むるは恰も雨夜に星を求むるが如く至難であつて私は昨年鳥取、愛知、岐阜縣下を視察した結果、蜂の習性上右の各縣下で眞の純粹種を求めるとは全く不可能なりと斷言する

現在三四月頃に於て一箱二拾圓、五六月及以降に於て一箱拾圓以上の代金を支拂ふは全く相場外である

本郡でもある専門養蜂家の蜂群相場が七月に於て一箱貳拾四圓に取引せられつゝあるのを

目撃して全く一驚した買入の時期は三四月を最も好時期と云ふ可きだが價格が高いので先づ五六月を適當とし盛夏の頃は絶体に不可と思ふ

第七節 蜂郡の構成

蜜蜂は必ず群をなして生活し一疋のみにては生活し得ない即ち王蜂(女王)一疋と働蜂幾万匹と雄蜂若干とによりて一群を構成す

王蜂は三年―五年の生存力を有して終始巢箱内に在りて産卵を使命とし春夏秋冬期を通じ一日大底數百―數千の産卵を持続する

雄蜂は春李分峰時にのみ必要であつて新女王と交尾のみを職分とし數百匹の内一匹丈しか其の用をなさない

働蜂は卵の孵化哺育、造巢、警備、貯蜜等實質的な仕事は總て働蜂に依つて爲される随つて其の生命と無精卵二ヶ月―數ヶ月にて終る

王蜂は受精卵を自由に必要に應じて産卵する事を得無精卵はやがて雄蜂となり受精卵は働蜂となる

王蜂は王臺と稱する特殊なる巢房に受精卵を産み付け働蜂に依りて乳及其他の特に榮養分によりて育兒されたるものが王蜂として生れる

孵化日數は王蜂十六日、働蜂二十一日、雄蜂二十四日である一枚一枚の巢脾には其々の定められた區域がある

即ち巢脾の中央部に稍々圓型をなして巢面の約半分—三分の一内外の面積に産卵育兒をなすこれを俗に産卵園と稱し箱内の中部巢框三枚—五枚位を普通とし此の部分の温度は外氣の如何に不拘す攝氏三十三四度の保温を示す

其の産卵園の周圍に花粉を貯へ花粉圈の周圍に貯蜜をなす

箱内の温度の調節は總て働蜂に依りて調節持續せらる即ち氣高き時は蜂は粗に巢面に附着し或は一部巢外に出で或ひは翅を振して風を起し、ひたすら氣温の下降を計り之に反し箱内の温度低きに失すれば蜂群蜜集して温度の散逸を防ぎ或ひは蜂自体の運動によりて發熱作用を起して調節をなす

育兒に要する温度は攝氏三十二度—三十五度活動時に適當なる箱内の温度は二十二度—二

十五度と云われて居る

第八節 蜜蜂の管理

私は常に蜜蜂は庭先に箱を据置き蜜の溜りたる時にのみ採蜜すれば別に人為的に助力するの必要なきものと信じて居たが實際に飼育研究の結果養蜂程人為的助成に依つて其の成績に差異を來すものは無いと信ずる、人為的操作の結果自然飼に比して二倍若しくは數倍の収益を擧ぐることは決して難事ではない、そして又蜜蜂はよく逃去るものだと云ふ事を信じて居たが之も全々嘘であつて歐洲種であつて或る程度面倒を見てやれば決して逃げるものでない事を斷言する

現に私の村に現在五十六箱(本年は恐らく百五十箱)の飼育箱數があるが大抵初心の人のみなるに拘らず逃去つたものは一箱もない

却つて手入せない爲に昨年三箱の蜂群を全滅させた例がある

逃去の原因は夏期貯蜜の不足と或ひは巢虫(害虫)の繁殖、王蜂の産卵不能、雀蜂の襲來等に依る外には絶体に無いと思ふ

一、巢箱の移動

一度据置いたら成可動かさぬことで止むを得ざる場合は毎日二三尺位宛移動するか或ひは二日程箱の入口を閉鎖して然る後移動せねばならぬ

二、蜂群の合同

蜂群が手入の不充分、雀蜂の襲來等に依つて著しく数が減じた場合は二群若くは三群を合同する必要があるでないと前記の様に産卵育兒温度の關係上保温不充分的爲女王は産卵を中止し爲に新蜂の發生なきに不拘らず働蜂は次々に死滅するを以てやがて全滅するに至る全滅せず共やがて來る越冬に際し嚴寒の保温に耐へ兼ねて死籠となり無理に越冬しても春季の採蜜に當り育兒、造巢に勞力を採られて採蜜不充分となる合同の方法は色々あるが最も成績のよかつたのは弱群の王蜂を二三日前に殺し清酒一口を兩方の箱内に吹掛け兩方を一つにすればよい

三、王蜂の移入

春季或ひは秋期であれば二段繼として中間に新聞紙一枚にて區切してもよい

王蜂は又よく逃去することがある昨年の如きは五十六群中王蜂の逃去せるものが三箱に達した

其んな場合や王蜂の産卵能力の悪い場合王蜂の体格の不良なる場合は優良なる王蜂を移入せねばならぬ

方法は至つて簡單で無王にした蜂群中に王籠に入れた新王を二三日釣下げ置いた後靜かに籠を開きて新王を巢面に放てばよい万一此の場合働蜂が移入王に危害を加ふる虞ある場合は更に四五日籠に入れて置く必要がある

四、給餌方法

給餌には其の目的に依つて獎勵給餌と補給々餌とがある獎勵給餌は三月上旬及九月上旬の二回が普通であつて其の目的は給餌と云ふ刺戟によりて産卵を促進活動せしめ以て次に來る流蜜期に其の能力を増大し一面越冬に必要な蜂群の數を増加せしむる手段の爲に用ひられる

事實春先の獎勵給餌に依りて自然放任の蜂に比べて幾倍かの收蜜をなすから忘れても

給餌せねばならぬ補給給餌は夏期箱内に貯蜜のなくなつた場合及越冬前の十月頃に越冬に貯蜜量が不足なりと思つた場合に施す

奨励給餌の場合は大体砂糖二斤―三斤位であるが補給給餌は箱内の貯蜜の都合で或ひは二三斤で充分な事もあるし或ひは十斤、十五斤を必要とする事もある

給餌の方法はざらめ一斤を(百六十匁斤)水三合に溶解したるものを給餌器又はドンブ等に入れて麥蘖等を液面に浮かして夕方箱内に入れてやると大底朝迄には全部吸採つて居る万一朝残つて居る場合は容器を一旦取出して夕方に又入れてやる

夜間に給餌することが必要であつて私は昨年晝間給餌した爲にむざ／＼一箱を全滅させた苦い経験を持つて居る其は他から盜蜂にやられたり雀蜂來襲の原因となる

五、分 蜂

分蜂は申迄もなく一箱の蜂群が二組に分れることであつて此の場合舊女王は新女王若しくはやがて生れ出づ可き女王に舊巢を譲り自分は現働蜂の約三割―四割を伴ひ巢門を飛び出し一先づ附近の樹木の枝草等を集ひて随圓型の蜂球を型作り普通王蜂は其の

蜂球の表面上に附着して居る此の際に他の箱に收容するのであつて其のまゝ放任すると約二時間内外の後働蜂の一部が新しい住家を發見次第一路其の方へ飛去るから收容は不可能に近い

分蜂は殆んど春の四月末から七月上旬迄に行われ無風曇天の暖い日の午前十時から午後三時頃迄が普通である先づ分蜂の日は朝から何となく巢門に落付がなく其のくせ花粉及採蜜が行れない

第一回目の分蜂は新王が生れて直後か或ひは生れる二三日前に行われ第二回以後は大底新王の孵化二三日前が最も多い様である

自然に放任すると春李大底五六から七八或ひは十以上の王臺を作り随つて王臺の數丈分蜂し爲に一箱當りの蜂數が非常に尠なくてやがて合同せねばならぬ事になるので巢脾を檢査して必要な丈の王臺を残し他の不必要なものは不良なものから漸次除去せねばならぬ

一箱の蜂群を幾箱に分蜂す可きかと云ふ事になると其の群の蜂數流蜜の關係、養蜂の

目的等に依つて決定す可きであるが普通の場合、種蜂即ち増殖を目的とした場合は一群を三群一四群、採蜜を目的とする場合は分蜂の中止若しくは二群位ひに止めねばならぬ初心者は徒らに箱數の殖へるのを唯一の楽しみとし蜂の實力以上に分蜂せしめて失敗することが多い

私の村でも其のために切角の元巢二箱とも全滅した例がある

分蜂群を收容するには分蜂した蜂群を袋に包みて新しき巢箱に豫め貯蜜の框一二枚を入れた中に振落して直ちに蓋をなしてもよいが私が實行して一番よいと思つて實行して居るのは先づ元巢の内貯蜜のある框を二枚位取出し附着して居る蜂を振落して新箱と框を持つて蜂球の場所に至り框を蜂球の上部に差出して細き竹等にて蜂球の下部を軽くさわると蜂はゾロ／＼と上部へ上部へ上りて框の兩面に一杯に附着する故直ちに箱の中へ框諸共入れ別の框にて前記の様に繰返すと、框二枚あれば相當の大群にても全部收容することが出來而も刺されることがない、刺される事で思出したが養蜂をやるのに刺れることを恐れては養蜂は成功しない大膽に落付いて作業をすれば滅多に刺

すものではないが其れでも遅かれ早かれ必ず刺れることがある最初は相當腫れるが十回以上刺れると痛さも始め程に無いし絶体に腫れなくなる

蜂に刺された場合は刺した蜂は直ちに死ぬし刺した場所に針が残るから直ちに手で針を抜取り齒糞かアンモニヤ液か木灰を付けるとよい、尙刺した場所を手先で絞つて血を出すのもよい、以上の方法を俗に自然分蜂と稱へられ他に人工分蜂の方法がある、人工分蜂の内に移虫方に依りて王蜂を養成してやる方法があるが成功はするけれ共私は何も苦しんで此の方法を採る必要はないと思ふ

然し單なる人工分蜂は時に必要欠く可からざる事がある即ち分蜂時に他用の爲不在の止むなき場合等には誠に好都合である普通の場合に於ける私の浅い經驗の結果は人工分蜂によるものは分蜂後四五日間は蜂の活動頗る緩慢であつて其の後の成績も大体悪い様である

人工分蜂の方法は巢框を檢查して王臺が始め淡黄色のが濃黒褐色になれば二三日中に孵化するのであるから期を逸せず他に新しき框を用意して其の中に舊王の附着せる框

及兩側の框を新箱に移入すればよい

大体蜂の数は舊箱に六分位残して置く、或ひは反對に王台の附着して居る分を反對に移す場合もあるが舊巢に歸る蜂が多くて成績は悪い様である

六、採 蜜

採蜜は明石郡地方で固定飼育をなす場合は絶体に五月以外は不結果に終る

五月の紫雲英を中心とする流蜜期には一回搾つて五六日するごの框にも蜜が充満し舊巢の上部一二寸巾に白い蓋をするに至るから其の時框を一枚宛取上げて巢箱の上で一二回強く蜂を振落し尙巢面に残る蜂を羽掃木にて掃落し及の薄い及物で蓋を切捨て分離器に掛けて採蜜をする蓋を切る時温湯を用意して時々及物を温湯に浸して切ると大變切り易い

一枚の框に蜜が充満した場合は一枚で四百匁近くの蜜が採れる

此の場合産卵した框も採蜜してよいが無蓋の産兒框は蜂兒を振出すから採蜜せぬ方がよく増殖を主とする場合は蜂兒框には手をけぬ方がよい様に思われる其から如何なる

場合と雖も箱内の框は必ず箱の一方から次々に蜜着せしめ置く可きで框と框とを離らかして置くと其の次には造巢の爲に元のまゝに密着せぬ様になり産卵育兒上蜂のためには甚だ不都合なばかりでなく遂には規定の框數が這込らなくなる
尙又産卵育兒中の蜂群の框は特別の事由なき限り中央部と外側とを入れ換てはならぬ、但し高等養蜂技術としては行ふ可き事があるが普通は面白くない

七、越 冬

養蜂家にとりて一番厄介なのは越夏と越冬である十月上旬頃になれば先づ箱を驗して検査すると大体六月頃の蜂數の半分位に減じて居るのが普通である

其の時蜂の餘り附着して居ない不用の框は全部取除き残りの框を箱の一方から並べて空間の部分は薄板で隔りを作り空間の部に靱穀を充満して保温を圖り前頃に書いた割合で砂糖水を給餌する

此の場合後先になつたが給餌は框を整理したる後未だ隔りを作らぬ前に給餌した方が大變やり易い

給餌の分量は越冬準備の良不良によつて相當異なるがごの框にも框の半分以上貯蜜があり而も框の上部二三寸程有蓋蜜があれば給餌の必要がなく無ければ其丈補給する秋の越冬給餌は多量に過した事はなく多量に給しても冬期の消費量には別に變りはないのであるから多量に給した方が安全でもあり春季の成績もよい給餌が濟んだら巢門の長さを全体の三分の一以下に縮少して他の部分は板等で閉鎖し且巢箱の上下左右共二寸以上の空間のある様に圍をなし其の空間に粗穀を充滿し巢門の所は隧ねる式にする

八、蜜及巢脾の始末

分離器に溜りたる蜜は布切にて瀧濁したる後容器に詰ればよい、但し卸賣として大量に販賣する場合は五日間位容器に溜めて濃度を比重一、四二度位にしてから石油罐に詰める巢脾は巢虫の被害を防ぐ爲蜜閉して二硫化炭素の燻蒸をなしたる後保存する

九、害虫驅除

養蜂家に一番苦手のものは何と云つても雀蜂(俗にドングリ蜂)の來襲だらう

時期は九月十月頃であつて始めは一匹位來るが次々に數を増加して遂には數十匹に達することがある

私の村でも僅か二三時間中に殆んど巢箱の前に蜜蜂の死体山積し全滅に類したものである

一箱や二箱位の飼育であれば巢門の前方五六寸の所に上部と前方を箱の大きさに應じて二分五厘目の金網を張り左右の下部は板張りとして防禦策を講ずれば至極簡單に防けるが箱數が多いと遂に面倒になつて被害を受けることになる

一〇、特殊採蜜方法

近時轉地採蜜及養蜂専門家の行ふ方法であつて春季流蜜期に當つて王蜂を除去或ひは王籠に幽閉して産卵を中止せしめ箱内の各巢脾全体に貯蜜させ且育危に要する働蜂の勞力に全部採蜜に充てしむる方法である

此の外繼箱式にして箱の繼目に隔王板を挿入する方法も古くから行われて居るが私の経験では却つて單箱式の方が良結果を修め得た

一一、轉地飼育

三六

主として鳥取、岐阜縣等の専門養蜂家の實施しつゝある方法で九州の菜種の次に中國の紫雲英、紀州の柑橘、北海道のクロバー等次々に花を追つて八噸車一杯二百箱十噸車五百箱と云ふ様に多量の轉地飼育養をなす方法で之に充分經驗のある者に限られ相當の危険性の随ふ代りに收益も又増大する譯である

一二、王蜂の養成

不良王蜂の取替王蜂の逃去等の場合、代王蜂移入の爲王蜂の養成を豫めなし置く必要がある

孵化間近の王台を挿入してもよいが産卵が遅くれて群勢にも影響するので矢張り養成した方がよいと思ふ

色々方法もあるが一番簡單で成績も比較的よいのは三寸角の箱を作つて上部は蓋付とし巢間に巾一寸、高さ三分としたるブリキ製の障害門を添えて取脱自由となし、中に巢框二三枚を入れて不用巢脾を切嵌め、別に孵化前の王臺を切取り王臺籠に入れて巢

内にて孵化したるものを働蜂數十匹並に雄蜂若干と共に前記小巢箱内に振落し蜜を巢脾面に施したる後蓋をなして弑力製の巢門を取脱し置く

數日後箱内を検査して巢脾に産卵あるに至れば王蜂は既に交尾済につき障害門を裝備して王蜂の逃去を防ぎ其のまゝ飼育して必要に應じ王蜂を取出す

一三、蜂蜜の効用及用途

軍事用、燃料用、酒釀用、工業用、食料用、藥用等其の用途數ふるに暇なきのみならず輸出品としての將來も又洋々たる前途を有する

農家としては砂糖代用品として自家用に供するも又一法である
藥用としての効果も時に一驚することが多い

製菓材料としても高級菓子には無くてならぬ主要原料である
蜂蜜は百分中實に七十七%の葡萄糖を含有し、營養價値の高き点に於て他に類例はあ
るまい

即ち七割七分は食後、胃腸の働きを借りずして直ちに吾人の血となり肉となる

胃腸病は勿論、唇の荒、心臓病、身体衰弱、神経痛、リウマチス、美顔料等々、餘りにも一般に知られて居る

結 論

私の経験は誠に淺く僅かに過去三ヶ年に過ぎない、自分の飼育箱十箱程と村内五十箱足らずの指導体験と鳥取、岐阜縣下の視察を基礎とし記述中の多くは斯道の先輩松本利明氏及徳田博士の著書並に鳥取縣技師伊藤氏に受けた指導が主である
蜂の習性、蜜蠟の採收、花との關係等未だ私の思ふ事の半分も記せず而も總体を簡略的に書いたので餘慶に不充分に終つた

記述中には私の觀察の間違つて居る点多いに違ひないが現在私の信じて居る事採つて居る寸法を素人の癖として大膽卒直に書いて見た

其の点は今後各方面の御指導を受けて研究改善を續けたいと思つて居る

二月十八日記

附 記

私は度々養蜂経験者から養蜂の失敗多くして有望ならざるの言を聞いた色々原因を聞いて見ると結構左の事項に歸着すると思ふ

一、養蜂は只慢然と飼つたのでは必ず失敗する

蜂は生物であり生活は頗る複雑である蜂の習性を知らずして放任し自分に必要な時、時を關せず採密したのでは失敗せぬと云ふ方が無理だ

一、單に一地方で一人のみの小規模養蜂は失敗する

原料、機具等一人では求めるのに甚だ厄介であり經費を多く要し、時期を失し易く研究比較の對象なく餘程の根氣の強い人でない限り失敗するだらう

一、利益のみ考へ蜂に興味を感ぜざる人は大低失敗が多い、蜂に關心薄く蜂に刺れる事のみ虞れて管理が不十分だ

一、最初から大規模にやつてはならぬ

あく迄も副業を主眼として最初二箱(一箱では不結果に終り易い)から始め自家増殖と経験と密原とによつて漸次増大す可きだ

一、最初の分蜂箱数は少ない程失敗がない
 逸角始めは箱数を無理に増したが、無理な分蜂は必ず二年目に失敗することを断言する

六、水稻肥料施用試験研究

押部谷村農會技手 森 脇 茂

目的本村は従來の風習として苗代期に於て一般に概して厚蒔と本田に於て施肥の單用又は一時に施用せし關係上連年病害に冒され易く之が指導に努めたりと雖も効果顯著ならず依つて村内二ヶ所に於て一ヶ所一反歩以上の圃場を二區に分ち普通區試験區を設け之が試験研究せり尙收量調査に關しては担当者並に技術員立合の上坪刈をなし本縣農事試験場へ送付依頼玄米に調製之が調査を行ひたり

第一試験田 担当者 西盛 奏 貞雄

一、面積 九 畝

苗代期に於ける従來との比較

従來の方法	改良せし点	備考
一、苗代形式水苗代	同	圃場の關係上同一にせり
二、播種量五合	三合	従來に比し苗太く優良なる苗を得たり
三、播種期五月二日	同	
四、肥料人糞尿二回	人糞尿一回大豆粕二合	普通區は發芽後三寸位伸長したる時一回其後一回施用せしに生育不整なりき試験區は大豆粕二合播種の際原肥として施し人糞尿五月二十日生育不良分に對し施用せしに整一なるものを得たり

一、本田

耕耨に先だち圃場を實測し普通及試験區の堺に土を寄せ區分し耕耨は各々同一の方法をこれり

肥料			肥料		
肥料名	全量	追肥	肥料名	全量	追肥
普通區	原肥	追肥	試驗區	原肥	追肥
				一回	二回

組合肥料大粒二號	一〇貫	一〇貫	一	組合肥料大粒二號	一〇貫	一〇貫	一
鯨粕	一〇貫	一〇貫	一	鯨粕	一〇貫	五貫	三貫
							二貫

施肥法普通區は耕勸の際組合肥料鯨粕全部を施し試験區は原肥として組合肥料一〇貫鯨粕五貫施し第一回追肥七月二十日鯨粕三貫第二回追肥として穂菜期に二貫施用せり
 一、挿秧方法回轉式田植定木を用ひ株間八寸五分一株苗數は試験區三本普通區は適宜とせしに五、六本植付たり

一、植付期除草灌排水其他同一方法に行ひたり
 一、收穫成績

區別	品種	一坪		十株平均		反		當		收量比	
		株數	本數	穗長	草丈	精乾重	精乾重	精乾重	精乾重		
普通區	辨慶	四三	一七、四	六、一七五	四、〇五五	一四八、八〇〇	二五、二	五、八八二	一一、五〇〇	四〇〇	九五
試驗區	辨慶	四四	一七、七	六、三三〇	四、〇三五	一四四、六〇〇	二五、一	五、七六一	一一、七九〇	四〇二	一〇〇

結論

本試験の結果苗に於て本田定植當時普通區に比し植傷少なく出穂又普通區に比し二月早かりき
 病害並に米質、普通區稻白葉枯病に冒され米質に悪影響を來せしも試験區は病害なく米質又良なり

第二、試験田 担当者 高和 川本輝明
 一、面積一反六畝二十八歩
 苗代期に於ける從來との比較

苗代形式	播種量	播種期	肥料	從來の方法	改良せし点	備	考
水苗代	五合	五月三日	人糞尿一回	畑苗代	三合	大豆粕三合木灰五升	改良せし点に於て折衷式にする豫定の所用水の關係上畑苗代にせり尙覆土すると共に蓆を以て覆ひたり從來に比し苗太く優良なる苗を得たり
							普通區は發芽並に生育不整なりしも試験區は發芽並に生育共良好なりき

一、本田

耕耨に先だち圃場を實測し普通及試験區の堺に土を寄せ區分し耕耨は各々同一の方法をとれり

普通區反當肥料			試験區反當肥料						
肥料名	全量	原肥	追肥	肥料名	全量	原肥	追肥	追肥	追肥
アンモース	一〇貫	一〇貫		アンモース	六貫	六貫	一貫	一貫	一貫
硫酸加里	三	三		鯨粕	三	一		三	一
	一	一		硫酸加里	三	三		一	一

- 一、施肥法普通區は耕耨の際アンモース硫酸加里全部を施し試験區は原肥としてアンモース硫酸加里を耕耨の際施し追肥として七月二十一日鯨粕三貫除草の際之が施用せり尙アンモース使用せしは試験部落に於て近時之が施用者多きを以てなり
- 一、插秧方法回轉式田植定木を用ひ株間八寸五分一株苗數試験區三本普通區は適宜とせし

に五六本植付せり

- 一、植付期、除草灌排水其他は同一の方法をとれり

一、收穫成績

區別	品種	株數	十株平均			反			當			
			本數	穗長	草丈	精乾燥	一升	精玄米	一升重	玄米	收量比	
普通區	辨慶	四三株	一五、一	六、三五	四、〇九	一五、五〇	二四八	六、一三〇	一〇五、九〇〇	四〇〇	二、六四八	九六
試驗區	辨慶	四三株	一六、二	六、三〇	四、〇九	一四、四〇〇	二四八	五、四二九	一〇九、五〇〇	三九八	二、七五二	一〇〇

結論

本試験の結果苗に於て本田定植當時普通區に比し植傷少なく出穂一日早かりき
 肥料普通區は肥切の感ありしも試験區は適量なりき但し一部土質の關係上倒伏せしも成熟の末期なりしを以て米質に影響少なりき
 病虫害に於て普通區は稻白葉枯病に冒され米質並に收量に影響を來せしも試験區は病害なく米質また良なり

七、煙草後作ノ水稻白糯ニ就テ

神出村農會技手 柴原彌之助

神出村の煙草耕作面積は五十町歩にして之が後作の適否は總收入の上ニ相當大きな結果を來すものであり何とかして本村の經營状態に適する後作を見付る事に隨分苦心を續けて居る、從來は大豆、小豆、ソバ、バラキビ、大根等を主とし反當收入二十圓乃至三十圓を普通とし近年はトマト、胡瓜、セルリー、体菜、白菜等を栽培し收入は多少増加したとは云へ勞力不足の關係上其の面積たるや極めて僅少に過ぎず

其處で用水不足勝の神出村ではあるが先づ勞力の上より又前年の水稻梗の試作成績に鑑み栽培上最も容易であり一般的な水稻白糯を選んで之が植付時期と收量關係及他作物との收入比較を調査したのであつて其の成績概畧左の如し

記

- 一、試作反當者 神出村田井 野口重一
- 二、試作地 神出村田井字小原

三、試作田面積 甲一反歩 乙一反歩 計二反歩

四、試作品種名 水稻白糯

五、栽培方法

1. 苗 省畧(普通栽培したるものを充當)

2. 仮植(仮植は甲、乙の區別なし)

仮植 月日	仮植 面積	仮植地前作物	整地	苗取	一株苗數
六月二十四日	一二五坪	麥	普通稻作の方法に依る	植付當日拔取	六七本

株間	仮植方法	施肥量 (一二五坪分)	施肥方法	除草	其他
四寸角	繩張片正條	腐熟厩肥三〇〇斤 硫安粕一〇斤	元肥として 糶込	行はす	普通稻作と變 る處なし

3 本 田

試作區別	移植月日	面積	耕耨	整地	苗拔取時の株張
甲	七月二十三日	一〇〇〇步	一回	普通稻作の方法に依る	十四五本
乙	七月二十八日	一〇〇〇	一回	同	十四五本

苗拔取	植付本數	株間	植付方法	肥料
仮植地の坪當り五十 六株を殘して植付當 日全部拔取	同	九寸角	稍深植にて繩 張片正條	施さす
同	同	九寸角	同	施さす

第一回	第二回		刈取前穂數	刈取	其他
	除	草			
七月三十日株直を主 とす	八月十四日	平均十六本	十月二十八日	普通稻作と 變る處なし	
八月四日株直を主と す	八月十六日	平均十六本	十月二十八日	同	

4、收量及米質

區別	反當收量	米質(產地検査受檢成績)	共同販賣價格
甲	二〇三合	青	一石 三八、五〇
乙	一七四三合	青	一石 三八、〇〇

5 普通稻作に比したる反當勞力増減

増加	減少	比較増減	備考
假植苗取本田植付迄 〇、六	本田除草計 一、五	比較増減 増 二、一	假植地ヨリ本田迄ノ 距離約一丁
勞力計 三、〇	勞力計 一、五		

6 普通稻作に比したる反當肥料代増減

增加	減少	比較増減
假植地肥料代計 四、一〇	本田肥料代計 一三、七〇	比較増減 減 九、六〇
假植地肥料代計 四、一〇	本田肥料代計 一三、七〇	

7 他作(昭和十年度)との反當收入高比較

白糯米收入高(玄米ノミ)	七八、一九 ^円	粳ノ普通稻作(玄米ノミ) 收入高	八一、二五 ^円	大豆、小豆等の煙草後作收入高	三〇、〇〇 ^円
--------------	--------------------	---------------------	--------------------	----------------	--------------------

感想

以上の成績より見れば煙草後作に白糯米は最適の感あり普通稻作に比し收量に於て稍劣り
 勞力に於て幾分多く要すると雖も肥料代を差引き収益は遙に凌駕するのである然も單價
 は高し栽培の如きは易々として難からず殊に煙草後作の糯米は土質や肥料關係のみならず
 特殊關係があるか屑米も少く米質至て優れ其上特別の資本も技術も要せない
 又之れを他の後作に比すれば勞力に於て相當大きな差違を來し殊に收入高に於て反當五
 十圓と云ふ豫想外の開きを生ず今此の開きを神出村の煙草作五十町歩に乗すれば驚く勿
 れ貳万五千圓の增收を得る譯である
 更に移植期と收量とは多大の關係を有する幸にも米作が煙草作に何等惡影響なしと聞く

專賣局の獎勵と相俟ち煙草を早く播種し收穫期を早め後作たる白糯米をして出來得る限り
 七月二十日迄に移植を終れば一層增收を得るものと信ず
 將來は用水の節約を計り許す限り煙草後作に水稻白糯米の普及徹底を期したいものである

八、肥料共同配合所經營狀況

平野村農會技手

戸

田

純

一

一、場所 明石郡平野村農會

一、配合所建物 平屋とたん葺四十坪

附屬事務室 三坪

一、設備器具機械

原原機 發動機三馬力 一台

(同) 自動車エンジンに取替)

大豆粕粉碎機(尾上式) 一台

肥料粉末機 (尾上式) 一台

附属エレベーター 一台

以上主なる機械にして其他臺秤一臺及配合用器具一切を設備す

一、肥料の申込

配合肥料を製造するに先ち村内農家より別紙肥料申込書を徴し(部落農會に配布し部落農會長之を農家に配布申込書を各々取纏め一活して農會に申込)たる后之を集計各肥料原料を算出したる后縣肥料係及肥料検査所係員と協議の上入札に附す

一、入札方法

一定の様式により入札期日を定め肥料商に通知を發し前記係員立會の上入札を行ひ最低價格に落札す

一、肥料配合

肥料配合に當りては各部落より青年人夫を交代に使用し作業時間を定め前記機械を運轉し各々部署を定め能率の増進に努む

先づ其配合順序を示せば

粉碎せし肥料原料を九尺—十二尺巾二尺五寸の區域に各種類毎に推積す

一回の配合量は百貫(十呔)とし一日一人當簡單のものは三百貫(三十呔)複雑のもの二百貫(二十呔)三百貫(三十呔)とす平均二百五十貫(二十五呔)とす

一、製品分配及代金徴收方法

前記製品は直に申込部落農會へ通達し現金引換にて各引取らして引渡に際し經費を軽減るす爲め各々呔を持參せしめ其場にて正味申込書を交付することとなせり而して其製品に對しては別紙保証票を交付し且つ裏面に使用方法を掲記す

一、肥料配合設計書

	苗代肥料	大粕肥料	小粒豆肥料	小粒二號肥料	西瓜肥料
大豆粕	二、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、一〇〇	1
鰯粕	三、〇〇〇	三、〇〇〇	二、〇〇〇	三、〇〇〇	四、五〇〇

硫 大 安 豆 粕	麥 肥 一 號						麥 肥 二 號					
	綿 實 粕	骨 粉	蹄 角 粉	塩 加	硫 加	過 石	綿 實 粕	骨 粉	蹄 角 粉	塩 加	硫 加	過 石
一〇、〇〇〇				七〇〇	一〇〇	一、九〇〇	二、三〇〇					
九、〇〇〇				七〇〇		一、三〇〇	二、〇〇〇					
三、〇〇〇				六〇〇		一、〇〇〇	二、四〇〇					
一、〇〇〇				七〇〇		一、二〇〇	一、〇〇〇					
二、二〇〇	二、五〇〇	八〇〇		七〇〇		八〇〇	七〇〇					

過 塩 鱈	石 加 粕
15%	60%
四、六〇〇	四〇〇
五、四〇〇	四〇〇

一、配 合 成 績

計	西 瓜 肥 料	麥 肥 料	稻 肥 料	昭 和 九 年	昭 和 十 年	昭 和 十 一 年
二二一八二	三〇九三	七〇七二	一一〇一七	二二一八〇	四八〇〇	一三七八四
				二二一八〇	六四八四	一三七九五

一、配合肥料試験成績（稻作改良實施指導地成績による）
稻作

苗代肥料 坪當一二〇匁施用
本田肥料

小粒一號反當二五貫施用 元肥十五貫、追肥七貫、三貫二回施用す

生育狀況

一、稈長三尺八寸

一、株分蘗數二十四本

一、穗長 七寸

一、倒伏 ナシ

一、生育良否 良

一、其他風害を受く

品質及收量（反當）

玄米 三石二四 品質乙 朝日種

屑米 二五

藁 二二五貫

小麥作（小麥實施指導地成績に依る）

本田肥料

麥肥料一號三〇貫 堆肥三〇〇貫 藁三〇貫施用

採種に當り配合肥料五貫、堆肥一五〇貫、追肥配合肥料一五貫、堆肥一五〇貫
木灰三〇貫及二回追肥配合肥料一〇貫施用

生産狀況

一、發芽 良 一、出穂期 五月六日

一、成熟期 六月十二日 一、病虫害 ナシ

一、倒伏 少

收量（反當）

新中長 二石八五

一、配合肥料に對する世評

目下合理的施肥の認識を高め農家の可及的使用をなし好評を受けつゝあり

配合肥料並幹旋肥料申込書

肥料名	數量	量
苗代肥料		貫
大粒肥料		貫
小粒一號肥料 (下肥地帯外)		貫
小粒二號肥料 (下肥地帯)		貫
西瓜肥料		貫
		噸

右申込候也

昭和 年 月 日

氏名

平野村農會御中

配合肥料並幹旋肥料申込書

肥料名	數量	量
麥一號肥料 (下肥地帯外)		貫
麥二號肥料 (下肥地帯貫)		貫

右申込候也

昭和十年十月 日

氏名

平野村農會御中

平農第二六二號

昭和十年十月廿六日

六〇

明石郡平野村農會長 笹川嘉三郎

殿

肥料入札御案内

拜啓益々御清榮の段奉賀候陳者當農會に於て左記の通り肥料購入致し度競走入札致すべく候間御入札相成度此段御案内申上候

入札要項

- 一、入札場所 兵庫縣肥料検査所應接室(縣廳裏)
- 一、入札日時 昭和十年十月二十九日 正午迄
- 一、開札の日時 昭和十年十月二十九日 正午
- 一、入札に附すべき肥料の種類數量 別紙の通
- 一、肥料の受渡場所 兵庫縣明石市

一、肥料受渡年月日 昭和十年十一月二日迄

一、代金支拂 受渡完了後十日以内(荷爲替附可)

一、最低價格競合せる場合の處置 再入札

一、受渡肥料成分不足せる場合の處置

別紙條件により賠償せしむ

備考

- 一、入札は必ず別紙入札用紙を用ふることを要す
- 二、肥料の風袋引量は阪神の常習慣に依る
- 三、容器は吹又は麻袋何れにても可
但し脱漏のおそれなきものたることを要す
- 四、落札決定後は直ちに契約書を作成すること

成分不足の場合に於ける賠償法

引渡しを受けたる肥料は兵庫縣肥料検査所に於て分拆を行ひ成分不足する時は左の區別に

從ひて賠償せしむ

即ち各成分の不足に對する賠償額算定の計算基礎に用ふる窒素、磷酸加里の價格の比は四、〇一、〇一五とす

購入すべき肥料の種類並に數量

肥料名	最低成分		加里	購入量
	窒素	磷酸		
大豆粕				五六七貫
朝鮮大羽 鰯粕 三等				五六七貫
硫酸アンモニヤ	二〇、五〇	一	一	一四七一貫
過磷酸石灰	一	一五、〇〇	一	二八三七貫
塩化加里	一	一	六〇、〇〇	二二七貫
計				五六六九貫

入札用紙

- 一、大豆粕正玉 一枚ニ付 圓 錢 厘 毛
 - 一、朝鮮六羽鰯粕 正味十貫ニ付 圓 錢 厘 毛
 - 一、硫酸アンモニヤ 正味十貫ニ付 圓 錢 厘 毛
 - 一、過磷酸石灰 正味十貫ニ付一五% 圓 錢 厘 毛
 - 一、塩化加里 正味十貫ニ付 圓 錢 厘 毛
- 右入札要領ニ基キ入札仕候也

入札者

平野村農會長 笹川嘉三郎殿

保證票

肥料名稱 平野苗代肥料

本品百分中主成分量

窒素全量 八、五〇%

アンモニア性窒素 四、五〇%
 硝酸性窒素 1%
 磷酸全量 四、四〇%
 水に溶解せずして枸橼酸
 アンモニアに溶解する磷酸 1
 水溶性磷酸 四、八〇%
 加里全量 五、〇〇%
 水溶性加里 四、八〇%
 製造年月 昭和 年 月
 製造場所 兵庫縣明石郡平野村
 主たる營業所 右 同
 肥料製造營業者 平野村農會

施用法

用量 (蒔坪一坪當)

壤土 折衷式 一二〇匁
 但シ極メテ肥沃ナル土地及低溫地ハ
 砂壤土 一一〇匁 揚床式 一〇〇匁

用法 播種前塗込ニ六割

拔苗四週間前ニ四割

他ニ肥料ヲ施スベカラズ

保證票

肥料名稱 平野稻肥料大粒號

本品百分中主成分量

窒素全量 九、六〇%

アンモニア性窒素 四、四〇%

硝酸性窒素 1%

磷酸全量 三、六〇%

水に溶解せずして枸橼酸
アンモニアに溶解する磷酸 1%

水溶性磷酸 二、〇〇%

加里全量 四、七〇%

水溶性加里 四、五〇%

製造年月 昭和十年五月

製造場所 兵庫縣明石郡平野村

主たる營業所 右 同

肥料製造營業者 平野村農會

施用法

用量 反當一八貫 (二畝)

用法 元肥 拾貳貫—拾參貫

追肥 七月末日 六貫—五貫

保證票

肥料名稱 平野稻小粒一號(下肥地帯外)

本品百分中主成分量

窒素全量 九、九〇%

アンモニア性窒素 五、三〇%

硝酸性窒素 1%

磷酸全量 五、〇〇%

水に溶解せずして枸橼酸
アンモニアに溶解する磷酸 1%

水溶性磷酸 一、五〇%

加里全量 三、六〇%

水溶性加里 三、五〇%

製造年月 昭和十年五月

製造場所 兵庫縣明石郡平野村
主たる營業所 右 同
肥料製造營業者 平野村農會

施用方法

用量 反當一八貫

用法 元肥 拾貳貫—拾參貫

追肥 七月末日 六貫—五貫

保證票

肥料名稱 平野稻小粒二號(下肥地帶)

本品百分中主成分量

窒素全量 八、七〇%

アンモニア性窒素 二、一〇%

硝酸性窒素 一%

磷酸全量 三、五〇%

水に溶解せずして枸橼酸アンモニアに溶解する磷酸 一%

水溶性磷酸 一、九〇%

加里全量 四、七〇%

水溶性加里 四、五〇%

製造年月 昭和十年五月

製造場所 兵庫縣明石郡平野村

主たる營業所 右 同

肥料製造營業者 平野村農會

施用方法

用量 本肥料は下肥を施用する地帯の稻肥料にして(反當二三〇貫位)従前通り

下肥を施用する場合反當用量九貫

用法 元肥 五貫

追肥 四貫—七月末日施用

保證票

肥料名稱 平野西瓜肥料

本品百分中主成分量

窒素全量 七、二〇%

アンモニア性窒素 一、三〇%

硝酸性窒素 一%

磷酸全量 五、二〇%

水に溶解せずして枸橼酸アンモニアに溶解する磷酸 一%

水溶性磷酸 一、一〇%

加里全量 四、五〇%

水溶性加里 四、一〇%

製造年月 昭和十年五月

製造場所 兵庫縣明石郡平野村

主たる營業所 右 同

肥料製造營業者 平野村農會

施用法

用量 反當 八五貫

外ニ木灰三〇貫

用法 元肥 八貫

追肥 四月下旬 第一回 九貫

五月中旬 第二回 十三貫

六月上旬 第三回 二十一貫

六月下旬 第四回 三十四貫

木灰は下種半ヶ月前に畦上に撒布し直に耕耨土壤と混合するをよし
とす

保 證 票

肥 料 名 稱 平野麥肥料一號

本品百分中主成分量

窒 素 全 量 七、一二

アンモニア性窒素 五、二〇

硝 酸 性 窒 素 一

磷 酸 全 量 七、三三

水 溶 性 磷 酸 六、七五

水に溶解せずして枸橼酸
アンモニアに溶解する磷酸 一

加 里 全 量 〇、四五

水 溶 性 加 里 一

製 造 年 月 昭和八年十一月
製 造 場 所 兵庫縣明石郡平野村
主たる營業所 右 同
肥料製造營業者 平野村農會

施 用 法

一、元肥ニ本肥料半以下肥(市尿)四〇―五〇貫施用シ二月追肥トシテ本肥料一以下肥
(市尿)五〇―六〇貫施用スルモノトス

二、元肥ニ本肥料半以二月追肥トシテ一以半ヲ施用スルモノトス
(但シ自家下肥(薄キモノ)ヲ施用ス)

保 證 票

肥 料 名 稱 平野麥肥料二號

本品百分中主成分量

窒 素 全 量 五、四四

アンモニア性窒素 四、一六
 硝酸性窒素 一
 磷酸全量 一一、九四
 水溶性磷酸 一一、四〇
 水に溶解せずして枸橼酸
 アンモニアに溶解する磷酸 一
 加里全量 〇、二八
 水溶性加里 一
 製造年月 昭和八年十一月
 製造場所 兵庫縣明石郡平野村
 主たる營業所 右 同
 肥料製造營業者 平野村農會
 施用方法

一、元肥に本肥料半以下肥(市尿)五〇―一六〇貫施用し二、三月追肥として本肥料半以下

肥(市尿)一五〇―一六〇貫施用するものとす

(本肥料(二號肥料)施用適地ニハ石灰一五―二〇貫施用の必要あり)

領 證 收 書	第 號	昭 和 年 度	領 證 一 金	領 證 一 金	領 證 一 金	納 入 者 氏 名	使 用 料 手 數 料	隨 時 分	納
合計									
右領收候也									
昭和 年 月 日									
平野村農會長 笹川嘉三郎									

番號	氏名	肥料名	數量	單價	代金	手數料	合計金額	領收月日
				円	円		円	

九、大久保村稻作法に就て概況

大久保村農會技手 高橋 梅 義

一、稻作研究の目標

- (一)、當地方は下肥を得易き關係もあるも今尙肥料配合に留意せず下肥、大豆粕、乾魚、等一―二種或は單一施用するものあり尙一般に窒素質に邊し或は窒素過多の施用をなす癖あるを以て之れが改善參考の爲め配合に留意し且自給肥料を主肥とし尙多種施用栽培する事にし尙且安全に多收穫を得んとす
- (二)、當地方は一般に疎植する習慣あるを以て可成密植とすること

- (三)、當地方は一般に灌漑水餘り豊富ならざる關係もあるも一般に水を吝み溜むる慣習あり中には終始深水とし乾燥するが如き事の全々なきものも相當あるを以て可成淺水とし尙時期を見計ひ乾燥することゝす
- (四)、可成深耕し耕土を増す事にす

二、耕作方法

(一)、苗代

栽培品種は朝日にして種子は縣原種採種田生産種子の配布を受け反當二升坪當二合五勺播とす

苗代は折衷式とし整地は三月二十八日稻株及雜草を除去し深さ三寸に耕起し其の儘放置し四月十七日犁返し五月二日土塊を碎き蒔床四尺通路一尺高さ三寸の畦とす
五月六日播種し直に鍬裏を以て耙を壓入し種子の隠るゝ程度に細砂を覆ひたり播種後二週間浸水し其後落水時々濕を與へたり此の間害虫驅除を兼ね三回除草を行ひ六月二十三日硫酸ニコチン液を撒布したり

肥料は左の通り施用す(坪當)

肥料種類	施用全量	原肥	追肥	含有三要素			備考
				窒素	磷酸	加里	
人糞尿	一、五〇〇 ^匁	一、〇〇〇 ^匁	五〇〇 ^匁	八、五五 ^匁	一、九五 ^匁	四、〇五 ^匁	
過磷酸	二〇	二〇			三、〇〇		
藁灰	一五〇	一五〇		八、五五	三、一五	七、三〇	
計				八、五五	八、一〇	二一、四〇	

施肥方法

原肥の人糞尿一貫匁過磷酸二十匁は四月十七日の整地の際の犁返し直後撒布し五月の二日土塊を碎き畦立の際表土に充分混合し藁灰百五十匁は種子に覆土(砂)したる上へ撒布し追肥の人糞尿五百匁は六月七日稀薄撒布したり

(二) 本田

研究田反別 一反一畝四歩

整地及插秧

六月二十日深耕犁を以て深さ五寸五分に耕耨し二十六日灌水翌二十七日代掻(直に一株二―三本宛株間横八寸縦七寸五分一坪當六十株に密植す)

灌排水

插秧後三日間稍深水とし其後淺水とし時々晴天に落水日乾し(灌漑水の無くなりたるるとき一日乃至二日間日乾したり)尙八月一日除草終了後五日間落水乾燥す其後淺水とし穂孕期より稍深水とし穂揃期迄絶對に水を切らず其後穂の傾摩し始めてより(九月十六日)灌水を減じ糊熟末期に落水したり

除草

七月四日除草機を以て縦横に第一回除草を行ひ七月十一日同じく縦横に第二回除草を行ひ其後一週間毎に二回手取除草を行ひ八月一日終了す

肥料 (一反歩當)

肥料種類	施肥全量		追肥		窒素含有率	酸性	加分里	備考
	原肥	一回	二回	三回				
堆肥	三〇〇 _貫	三〇〇 _貫			一、五〇〇 _%	七八〇 _%	一、八九〇 _%	
人糞尿	一五〇	一〇〇		五〇 _貫	八五五	一九五	四〇五	
鯨粕	七			三	六八六	二八〇	一	
過磷酸	八	四			一	二〇〇	一	
木灰	四〇	二〇	二〇	四 _貫	一	一、二〇〇	三、三六〇	
計					三、〇四一	三、六五五	五、六五五	

施肥方法

原肥の堆肥三百貫人糞尿百貫過磷酸四貫木灰二十貫は六月二十日整地の際犂込み追肥第一回の鯨粕三貫は七月十七日第三回手取除草直前撒布し除草直後人糞尿五十貫を撒布したり

追肥第二回の鯨粕四貫及過磷酸石灰四貫は八月一日止除草の際撒布塗込み直後木灰二

十貫撒布したり

刈取

十一月十八日 收穫す

收量

一反歩當三石八斗

備考

本年度は植付後低温なりし爲め一般に發育少々遅れ其後天候快復し發育も可成り良好となりたるも八月に至り大暴風雨あり其後降雨多く殊に出穂開花期に近年稀なる連日の大降雨あり爲に一般に一割前後の減收を見たるも尙研究田は幸なりしが尙田の普通作三石三斗を勝る事五斗の増收を見たり

以上

十、旱害對策作物研究

岩岡村農會技手

井 澤 武 夫

岩岡村は御承知の通り旱害地帯で有り、耕地七百余町有るの内普通の年に於ける水稻植付

可能面積は四百町内外なり然して平年に於ても年々旱害の爲め懊され旱天打續けば直に白乾龜裂し村内一圓の農家は自然の無情を歎じ嘆くので有ります
然して之が對策としては我々も常に研究を怠す農家も自然の貴き經驗を以て研究を重ね實行に移しつゝ有りまして段々と良き方に向ひつゝ有りますが未だ充分たりと云ひ得られず研究する余地まだく多いので有ります、私は之れに主体を置き東京を中心としたる關東地方の畑地に於ける栽培作物を視察せんと左の日程により一巡して來ました

記

静岡縣濱松園藝分場及天龍川驛附近のヘチマ栽培狀況

同興津園藝試驗場

神奈川縣秦野煙草試驗場及農事試驗場並植木藥草園千葉縣立農事試驗場及八幡街町附

近の落花生、ホーキモロコシの栽培狀況

東京市神田青物市場

埼玉縣入間郡農會の陸稻甘藷

郡馬縣木瀬產業組合

栃木縣明治村農會の冬瓜栽培

長野縣小諸驛附近の澤庵漬製造狀況

今其の主要研究事項に付簡單に記しますれば

一、落花生

神奈川縣は耕地面積六万九千余町にして其中田が二万八千八百五十町歩、畑四万七千四百余町有り畑が田の二倍二万余なり車窓より見るも水田少く畑地の方が多き様に見受けらる、奥地に入るに従ひ畑が多くなり畑ばかりの所も有り農家が水田の米を食べられ無き所も有るとの事です、然し農家は畑地なるが故困りもせず又作物に對し何等心配もせず上手に畑地を利用し相當の収益を上げて居るとの事でありました
之の様な所は當地方と土壤、土性も異つて居りますが一寸拜見しますると何等畑地なるが故に又水少き旱魃地なるが故に心配する様な点少しも無く餘裕釋々として居ると思はれます作物の選擇土地利用方法さへ充分研究すれば返つて價値大ならんやとも思

はれます

之等の畑地は主として陸稻、落花生、甘藷、花卉等を多く栽培せられて居ります

關東地方に於ける落花生はハヒ性、立性の二品種有り神奈川縣地方は立性多く現在壹千六百余町栽培されて居ります、千葉縣地方はハヒ性の千葉中粒四三號が多く栽培方法は所により多少異なるも大約を個條的に記しますと

1. 下種、麥の中作とする場合多く畦間二尺二寸—二尺五寸の見當に作り株間一尺—一尺三四寸の点蒔にして五月中旬頃一ヶ所二粒宛下種す

2. 反當種子量 六升(浸水し置くも可)

發芽は順調に行はば一週間に完全に發芽す

3. 畦立 六月上旬麥刈取後行ひ除草を兼ね片方宛行ひ十日乃至半月置に貳回に終る

4. 肥料 肥料は蒔き溝に施し施用量は堆肥百五十貫、硫加四貫、過石十貫、米糠十貫を混じ元肥とし下種十日前一度に施し覆土し置く(追肥は一般に施用せず)

5. 其他管理除草は常に注意し發生を見る時は直に手を下し除去し土寄を一回行ふのみ

なり

6. 收穫 堀取りは十月中旬

收穫は備中にて片方を軟くし又片方を軟くし、次に力を入れ深く堀り起す次に根を上にかかまにし晴天なれば五日間程其儘置き大体乾してから中に穴を開け下にまくらを置き根を中にして五、六の高さに積み麥其他の作業を終つた後收穫す(斯うする時は良く乾く)

7. 收 量 反當四百斤—五百斤

(百斤當昭和九年の相場拾圓—拾貳圓)

8. 其他

一反歩に要する人夫 貳拾人見當

此の邊の小作料 五、六圓(三圓位の所も有り)

肥料代 六圓—七圓

大約四、五拾圓位の收益有り人夫賃等參拾圓位を要し貳拾圓位の純收益有るとの事

販賣は土地の仲買人により取引せらる

二、陸 稻

陸稻は關東地方各縣共に多く主要作物にして陸稻米を以て常食とせる所が非常に多い様であります

神奈川縣に於ける陸稻栽培は其起源古く現在七、八千町歩栽培せられ年々改良に力を重ねて居ることの事でありませす

陸稻に於ても反當收量の多き所は三石位收穫し平均では一万五、六斗との事で、陸稻米と水稻米との價格の差は大體一割位なるも栽培が水稻に比し簡單にして播種後は灌水等少しもせず唯肥培除草等のみであります

關東地方は土質が異ひ岩岡の如き粘質土では無く保水力が強くして輕き火山灰土であります

栽培されて居る種類は千葉に於ては戰捷と云ふ品種が多く埼玉地方が浦三と云ふ品種が多いとの事です

戰捷と云ふ品種よりも關西に於ては平山と云ふ品種が適して居るだらうとの事でありました、平山と云ふ種類は粳にして旱魃に對する抵抗力極めて強く栽培容易で中形中粒の品質の良きもので有りまして八月二十六、七日頃出穂し十月二十日頃收穫に達するとのことです

栽培は大、小麥の間作として五月中下旬頃反當三升五合一四升位の種子を以て直播し

麥刈取後畦立をします

畦巾は普通二尺にし四、五寸の一條蒔とします

其後の手入としても灌水等は絶對に出來得ず唯肥培除草等のみであります

中耕は除草を兼ね普通三回位行ふのです

第一回は麥刈取後苗の三、四寸に延びたる時

第二回は六月下旬

第三回は七月中旬頃

肥料はN二、三〇〇㏍A二貫K二、三〇〇㏍位して人糞を主とし配合肥料貳叭位施用

する程度であります

元肥より追肥の方に重きを置き稲の四、五寸に延びたる時施さる

反當四、五俵收穫有り人夫は反當十二、三人、肥料七、八圓位との事であります

三、甘 藷

神奈川縣に於ける甘藷栽培は紅赤と云ふ品種にして八千余町有り栽培法は當地方と變り有りません

四、ホーキモロコシ

千葉縣立農事試験場に到り陸稻、落花性、ホーキモロコシ等に付實際栽培状況を視察しました

千葉縣も神奈川縣と同じく水田地帯と畑地帯とに分れ畑地帯は可なり多い様であります、農事試験場視察後實際栽培状況視察せんと印旛郡八街町農會に行きました参考迄に八街町の状況を簡單に記しますと

耕地面積 壹千九百七拾余町歩

内畑壹千九百町歩 田 七拾余町歩

總戸數 貳千五百七拾戸

内農家戸數 壹千六百拾戸(專業壹千四百八拾戸)

八街町重要農産物

種 類	段 別	生 産 量	價 格
陸 稻	五一四、八 _町	六、〇六五 _石	一五三、一三三 _円
大 麥	六三七、二	一一、七七九	七六、五六四
裸 麥	五五、三	八〇二	七、二一八
小 麥	一、二七〇、八	一七、二八六	二二四、七一八
落 花 生	九九九、〇	二、五九七、四〇〇 _斤	二〇二、五九七
里 芋	二八五、五	六五六、六五〇 _貫	一〇五、〇六四
甘 藷	二七二、一	一、〇六一、一九〇	一〇六、一一九

トウモロコシ	八七、五	一、七九四 _石	二〇、二七二
ホーキモロコシ	八三、一	一〇、八〇三 _貫	一六、二〇五
ゴボウ	三七、九	一〇九、九一〇	一六、四八七
合計			九二八、三七七

以上全部畑作ばかりであります、落花生陸稻等は前に記しましたので次にホーキモロコシの栽培法をケ條的に述べます

記

- 一、品 種 早生ダルマ
- 二、下 種 冬季良く耕勸せる畑を畦巾二尺位に作り肥料を八寸乃至一尺隔てに施し其上に下種す下種は普通五月初中旬直播とし一ヶ所十粒位落す
反當種子量 壹升
- 三、發芽後の手入 發芽後五寸位に延びたる時に一株二本宛二間引き後中耕、除草を三

回行ふ、第一回中耕は六月上旬に行ひ以後十五日毎位に行ふ其れより出穂迄手を付けず

- 四、肥料 堆肥百五十貫、過石七、八貫大豆粕一枚、灰二十貫、殆ど元肥として施し追肥としては餘り施用されず

- 五、收穫 收穫の適期は開花後止葉より五―六寸花の道延びたる時に收穫す然して人力用脱穀器を以て粒を落し一日間天日乾燥を行ふ其後は穂を日に當てず穂首より一尺二、三寸下にて切り取る(一株より二、三本取れる)莖干は穂首迄穂を覆ひ行ふ斯くして三日位すると莖の青味が取れ黄色となる

- 反當收量 貳拾貫見當 貫當り貳圓位の相場
- 六、其他 五月一日に下種すると七月十五日頃に全部の收穫終り六月頃に下種すると九月に收穫終る栽培期間約百日旱天にも非常に強く枯れるが如きこと殆ど無く病虫害の被害とて更に無し栽培至極簡單なり

土壤は壤土が最も良く適し特に注意すべきは晴天に收穫することにして雨天に行へ

ば穂や莖が赤になる

之の様にして收穫せるものを保存し農閑期を利用掃として廣く關西の方面に迄送り陸海軍、病院等に納入して居るとの事でありまして畑作物としては最も適して居るとの事でありました

以上の外冬瓜の大栽培、静岡のヘチマ栽培等畑作物も拜見しましたが最も以上三つが當地方に適して居る様に思はれました

以上

昭和十一年三月十五日印刷
昭和十一年三月二十日發行
(非賣品)

編輯兼 明石郡農會
發行者 岡本正次郎

印刷者 明石市新濱町一丁目五三番地 松藏
平野

印刷所 明石市新濱町一丁目五四番地 平野印刷所
電話九五八番

終

